

## ものづくりのスピリットを伝授

### 学生90人が結束作業を体験

#### 関西鉄筋組合が大阪工業大学で出前講座

関西鉄筋工業協同組合は10月12日（水）、大阪工業大学の大宮キャンパス（大阪市旭区）で「出前講座」を実施しました。この出前講座は、学生たちに鉄筋工事の役割や重要性を理解してもらおうとともに、実際に組立作業を体験することにより座学で学んだことの理解を深めてもらおうというもので、昨年に引き続いての開催となります。今回は、工学部都市デザイン工学科の2年生90人が受講し、ハッカーと結束線を使って鉄筋組立作業に取り組んだほか、圧接の鉄筋継ぎ手工法などを学びました。また、当日の出前講座には行政機関や構造設計団体の担当者らも見学に訪れました。

実技に先立つ開講式で岩田理事長は「東日本大震災の津波で人命を守ったのは高い建物であり、その建設に携わる我々は大変重要な仕事を担っているという誇りを持っている。この出前講座を通じて、これから社会に出て行く皆さんにもものづくりのスピリットを感じてもらえればと思っている」と挨拶し、出前講座の成果に期待を込めました。

この後、学生たちは中庭に移動して5班に分かれ、5セット用意された2級の技能検定試験用モデルの組立作業に挑戦。講師となった組合員や組合員企業の職人から指導を受けながら結束体験を楽しんでいました。また、今回は関西圧接業協同組合も参加し、ガス圧接の実演などが行われました。学生を指導する三方康弘准教授は「昨年は職人の高い技量を再認識した学生が多く、その後の講義でも鉄筋の曲げ半径などを考慮して設計できるようになった。大学としては今後も継続していきたい」と話しています。

組合では出前講座について6月の大阪府立今宮工科高校、今回の大阪工業大学に続き、11月には大阪府立布施工科高校で実施する予定です。

※なお、大阪工業大学の出前講座に参加し協力してもらった組合関係者は次の通りです。

岩田正吾理事長（正栄工業）、田中勲副理事長・労務委員長（関西スチールフォーム）、岩田正労務部会長（正栄工業）、鎌田厚氏（鎌田鉄筋工業）、辻本浩二氏（辻本鉄筋工業）、又野吉史氏（又野鋼業）、森山直樹氏（城東鉄筋）、富田勇氏（富田興業）、今村俊郎氏（吉岡工業）、恵谷信氏（恵谷鉄筋）、鈴木勝則氏（ヤマシタ）、濱野功氏（関西圧接業協同組合理事長、新東圧接）、浜崎仁氏（近畿圧接）、山野繁明氏（関西圧接業協同組合）、職人5名（正栄工業、関西スチールフォーム、辻本鉄筋工業、吉岡工業、又野鋼業）。

**次ページ参照**

